

① 演習の進め方

【導入】 15 分程度

合理的配慮の提供までの流れを具体的な事例に沿って確認する。

【準備物】

- ① 演習の進め方（本シート）
- ② 合理的配慮の例（音楽会バージョン）
- ③ 基礎的環境整備・合理的配慮の観点の一覧表
- ④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと）

*①は配布しません。②～④を全員に配布します。

*①～③は必ず使用します。④は必要に応じてお使いください。

手順1 「② 合理的配慮の例（音楽会バージョン）」を使って、合理的配慮の提供の流れ（意思の表明→背景・実態把握→基礎的環境整備→検討等→評価等）を説明する。

③ 基礎的環境整備・合理的配慮の観点の一覧表

◇「基礎的環境整備」

- (1) ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
- (2) 専門性のある指導体制の確保
- (3) 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
- (4) 教材の確保
- (5) 施設・設備の整備
- (6) 専門性のある教員・支援員等の人的配置
- (7) 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
- (8) 交流及び共同学習の推進

◇「合理的配慮」 3 観点 11 項目

観点① 教育内容・方法

<①-1 教育内容>

- ①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
- ①-1-2 学習内容の変更・調整

<①-2 教育方法>

- ①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

④ 学校における合理的配慮の観点

※文

(報告)

別表」を参考に作成したものです。下線部は愛媛県総合教育センターにおいて追加しました。

①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

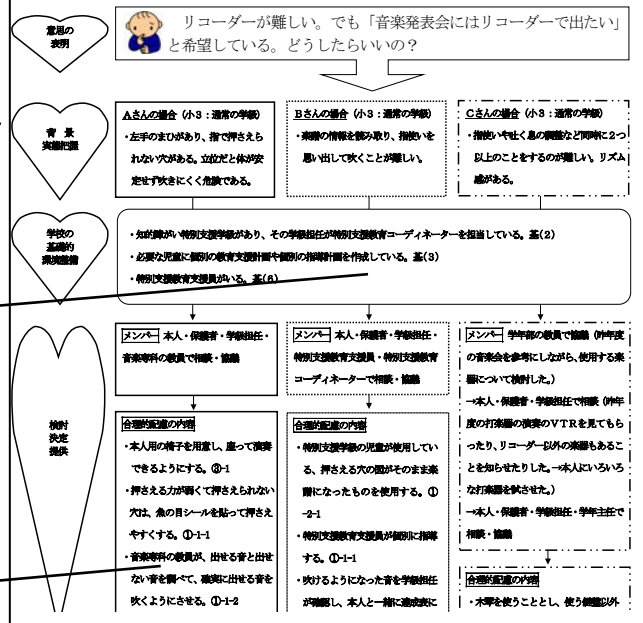
①自閉症の特性である「適切な対人関係形成の困難さ」「言語発達の遅れや異なった意味理解」「手順や方法への独特のこだわり」等により、学習内容の習得の困難さを補完するための指導を行う。

- ・繰り返し練習をして道具の使い方を正確に覚えることができるように指導を行う。
- ・意味を理解できるような動作・身振り等をしながら話をする。
- ・授業の流れを視覚化して明示する。
- ・授業中のルールを徹底する。
- ・指示は要点だけを分かりやすい言葉で伝える。
- ・板書の量やチョークの色を工夫する。

①-1-2 学習内容の変更・調整

①自閉症の特性により、数量や言葉等の理解が部分的であったり、偏っていたりする場合の学習内容の変更・調整

② 合理的配慮の例（音楽会バージョン）



手順2 「③ 基礎的環境整備・合理的配慮の観点の一覧表」を用いながら、番号はそれぞれの観点からあてはまるものを選んで記入していることを説明する。

*必要があれば「④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと）」で基礎的環境整備・合理的配慮の観点に基づいた支援について確認します。

【協議】 25 分程度

協議用ワークシートを使い、合理的配慮の提供について協議をする。

＊ 3～4 名程度のグループで協議できるように、グループ分けや机の配置を行います。

【準備物】

- ⑤ 協議用ワークシート
 - ア「集団活動」（幼稚園）
 - イ「板書」（小学校）
 - ウ「交流及び共同学習」（小学校特別支援学級）
 - エ「宿題」（小学校）
 - オ「授業の取組」（中学校）
 - カ「話し合い活動」（高等学校）
- 付箋

＊ア～カの中から協議させたいワークシートを選び、全員に配布します。
（拡大印刷したものを各グループに配布すると協議をまとめやすくなります。）

Aさん、Bさん、Cさんについて合理的配慮を考え、協議する。

＊協議する対象はグループごとに決めておきます。

- ・各自で、合理的配慮を検討する際に、必要だと考えられるメンバーや合理的配慮の内容を考え、付箋に記入する。
- ＊合理的配慮の観点に基づいているか確認し、番号も記入するよう促します。

- ・記入した付箋を出し合い、協議する。
- ＊似た内容であっても、様々な視点からの考えが大切であるため、記入した付箋は全て出し、各自の意見を聞きます。
- ＊合理的配慮の観点ごとに検討し、整理します。

- ・各グループで協議したことを発表し、全体で情報を共有する。

⑤ 協議用ワークシート

意思の表明	集団で話し合うことが苦手であるが、各教科の話し合い活動やホームルーム活動に参加したいと希望している。		
背景・実情	Aさんの場合 ・聴覚の障害がある。補聴器を装着しており、1対1であれば音声のみで会話ができる。授業では FM 補聴システムを使用している。	Bさんの場合 ・慣れない場では吃音が出る。言葉がつまることを気にして、自分の考えをすぐには発言できないことがある。	Cさんの場合 ・状況理解の困難さがあり、話の筋に合った受け答えが難しい。また、他者の感情理解が難しく、思ったことをすぐ口に出してしまう。
学校の基盤的資源	・特別支援学校のセンター的機能を活用している。基(1) ・特別支援教育コーディネーターがいる。基(2) ・必要な生徒に個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成している。基(3) ・学校に FM 補聴システムがある。基(6) ・特別支援教育支援員がいる。基(6)		
検討・決定・提供	メンバー	メンバー	メンバー
	合理的配慮の内容	合理的配慮の内容	合理的配慮の内容
評価・見直し	有意義な話し合いができた！ 苦手意識が減った！ ・個別の教育支援計画・個別の指導計画に記入、活用する。 ・定期的な評価をする。 ・見直しを随時行う。		

【まとめ】 10分程度

合理的配慮における評価・見直しについて確認を行い、理解を深める。

【準備物】

- ⑤ 協議用ワークシートの検討例
- ア「集団活動」(幼稚園)
 - イ「板書」(小学校)
 - ウ「交流及び共同学習」(小学校特別支援学級)
 - エ「宿題」(小学校)
 - オ「授業の取組」(中学校)
 - カ「話し合い活動」(高等学校)

*ア～カの中から協議で使用した検討例を全員に配布します。

手順1 「⑤ 協議用ワークシートの検討例」

のメンバーと合理的配慮の内容を確認する。
また、検討例は考え方の一例であり、正解
という意図ではないことを確認する。

*協議や発表の状況に応じて、下記の点も
確認してください。

○演習では、複数のメンバーで話し合うこ
とで、多様な意見が出たこと

○実際には、一人一人の実態に応じた合理
的配慮

を検討する必要があること

○全体で発表されなかった意見の中にも、
子どもの実態等によっては、有効な合理
的配慮となる可能性もあること

○本人の意思の表明に沿った合理的配慮と
なっているかという視点に立ち返りなが

手順2 評価・見直しについて確認する。

○十分な教育が提供できているかという視
点で評価を行うこと

○本人・保護者にも意見聴取を行い、今後の
方向性について確認をすること

○発達段階等に応じて、柔軟に見直しをして
いくこと

⑤ 協議用ワークシートの検討例

